



グローバルファンドの 概要

2026年6月



グローバルファンドの設立

エイズ、結核、マラリアは三大感染症と呼ばれ、1990年代後半、年間何億人もの人々を感染させ、500万人以上もの人々を死に追いやっていました。

日本が議長国を務めた2000年のG8九州・沖縄サミットで感染症対策が主要議題となり、追加的資金調達の必要性についてG8首脳が確認したことが、グローバルファンド設立のきっかけとなりました。

このことから、日本はグローバルファンドの「生みの親」のひとつと称されています。

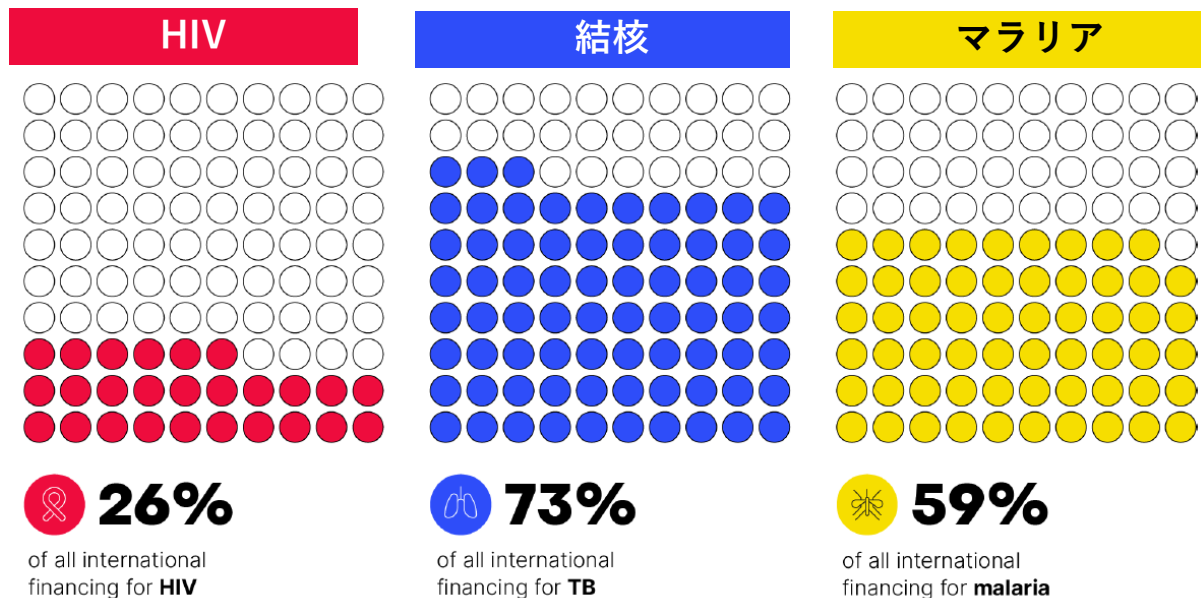
その後、2001年のG8ジェノバサミットで、エイズ、結核、マラリア対策のための基金設立が合意され、2002年に設立されました。

“初めてグローバルファンドを創ろうと提案した時、周りには「また夢みたいな話をして」と笑われました。でも何事も夢から始まるのです。”

コフィ・アナン 国連事務総長
(2001年4月)

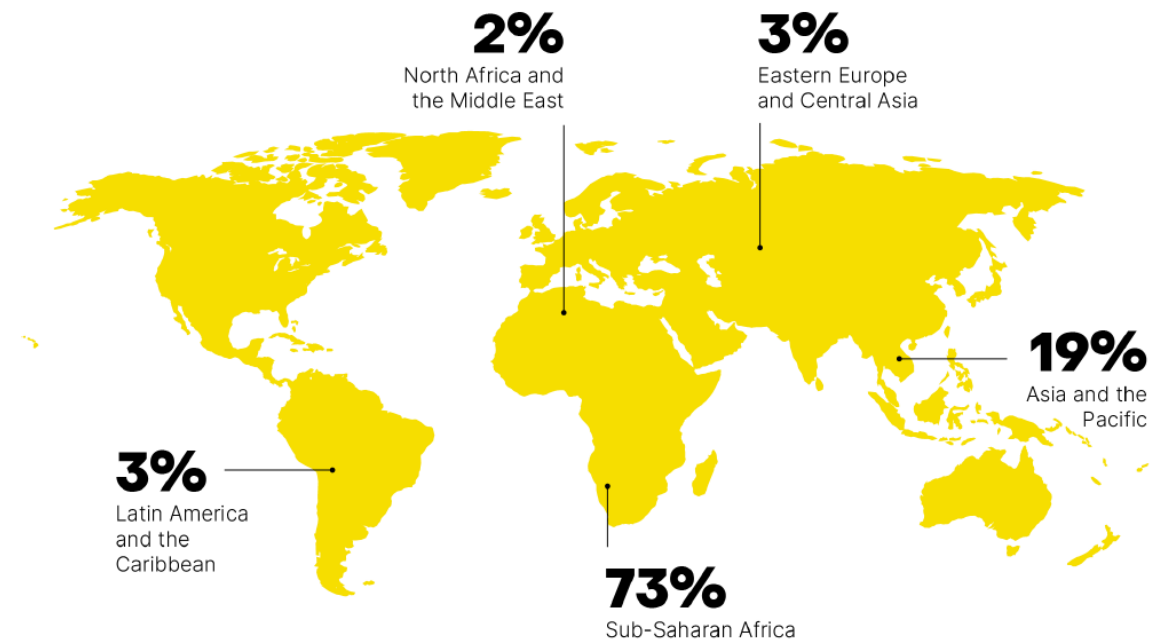
グローバルファンドの支援の割合・地域

2024年の国際的な資金支援におけるGFのシェア



GFの支援の地域別割合

2023-2025年のデータ



The sum of percentages across regions does not add up to 100% due to rounding.

2025年成果報告書

主要成果



**2560
万人**

抗レトロウイルス療法を受けて
いるHIV陽性者



**740
万人**

結核治療を受けた人々



**1億6200
万張**

マラリア予防のため
配布された家庭用蚊帳

主な成果

2024年にグローバルファンドが支援する国で得られた成果



HIV/エイズ

2560万人

抗レトロウイルス治療を受けているHIV陽性者数

4660万件

HIV検査実施数(うち1170万件は優先度の高い人々/キーポピュレーション)

1230万人

エイズ予防サービスを受けた人数(うち770万人はキーポピュレーション)

64万8000人

自らの命と母子感染予防のために医療を受けたHIV陽性の母親の数

140万人

抗レトロウイルス薬による曝露前予防を受けた人数



結核

740万人

結核治療を受けた人数

12万人

薬剤耐性結核の治療を受けた人数

31万7000人

結核治療中に抗レトロウイルス治療を受けたHIV陽性結核患者数

220万人

結核の予防的治療を開始した抗レトロウイルス治療中のHIV陽性者数

340万人

結核に曝露し予防的治療を受けた人数



マラリア

1億6200万張

マラリア予防のため配布された殺虫剤処理蚊帳の数

3億6000万件

マラリアが疑われる症例の検査数

1億7300万件

治療したマラリアの件数

5090万人

季節性マラリアの化学的予防(服薬)を受けた子どもの数

1780万人

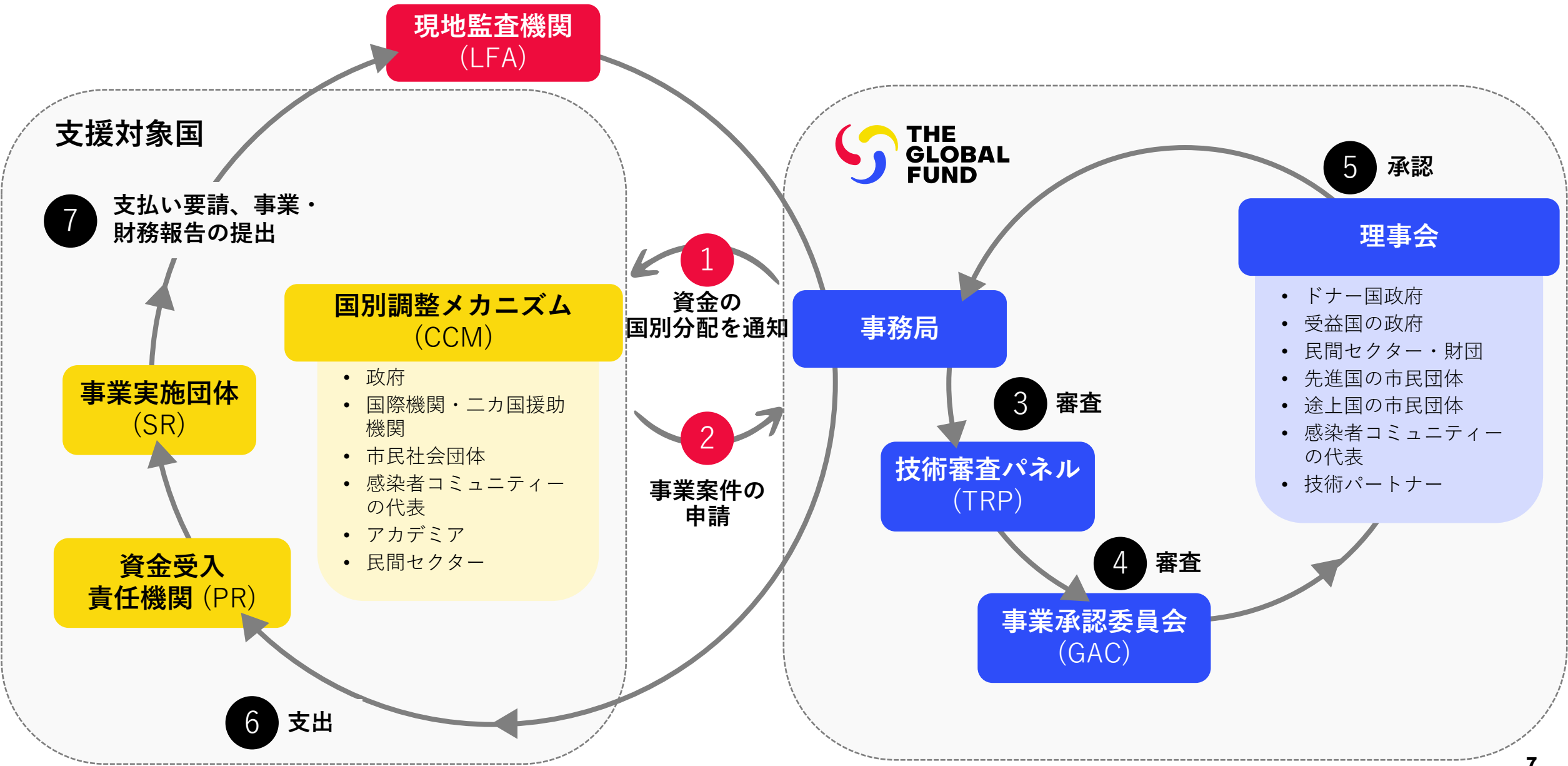
マラリアの予防治療を受けた妊婦の数

強靱で持続可能な保健システムの構築

- 公衆衛生の脅威としてのエイズ、結核、マラリアの流行を終息させ、新型コロナのような新たな脅威への備えと対策を支援するためには、強固な政府及びコミュニティの保健システムがきわめて重要で、強靱で持続可能な健康システム（Resilient and Sustainable Systems for Health: RSSH）を構築することが不可欠。
- グローバルファンドによるRSSH支援は、国際機関の無償資金供与の中では最大規模で、2024年から2026年の間、政府及びコミュニティのシステムに年間約20億米ドルを支援。公的な医療システムに加え、地域社会等のコミュニティへの支援も通じて、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）にも貢献。
- 低中所得国は、長年のHIV、結核、マラリアとの闘いで得た経験やラボ等の設備、コミュニティのネットワークが、新型コロナ感染症の対応に活かされた。



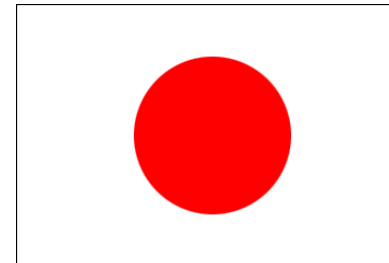
案件形成から資金供与の流れ



日本とグローバルファンドの関係

日本政府による拠出と関与

- ・ グローバルファンド設立当初より、財政・人材・技術の各面を通じて重要な役割を担っている。
- ・ 累積拠出額は54.6億米ドルで第5位のドナー。2025年に行われた第8次増資では最大810億円のプレッジを表明。
- ・ 理事会および戦略委員会を通じて、グローバルファンドの戦略に関する議論および意思決定に参画。



民間企業による資金拠出

- ・ 武田薬品工業は2010年より累積で19億円を拠出し、民間企業としては最も長いドナー。第8次増資では3.5億円のプレッジを表明。
- ・ タケダ・イニシアティブを通じてサブサハラ・アフリカ地域の母子保健サービスの体系的な改善を支援。
- ・ パナソニックは(RED)を通じて資金を拠出。



日本との連携

- ・ グローバルファンドは、日本がリードする各種イニシアティブ・議論に積極的に参加。



日本の技術は、エイズ・結核・マラリアの予防、診断、治療に使用されると同時に、保健システムの強化にも寄与

グローバルファンドは、国際保健機関の中では最大規模の、累積で12億米ドル超の様々な分野の医療製品や機材を日本関連企業から調達。

予防

診断

治療

 住友化学  三井化学

FUJIFILM

 **sysmex**

 **SHIONOGI**

ViiV Healthcare社へドルテグラビルの
ライセンス供与

その他車両・機材

 **TOYOTA**  **NISSAN**  **FUSO**
 **YAMAHA**
ISUZU **HONDA**
EPSON **Canon**



 **Otsuka**

OLYMPUS

arkray

 **FUJIREBIO**

meiji
Meiji Seika Pharma Co., Ltd.

 **Abbott**
日本現法

 **MIKASA
X-RAY
CO.,LTD**

Delft社、MinXray社を通じて販売

民間セクターとの連携

グローバルファンドは、命を救い、保健の不平等を克服し、将来のパンデミックへの対応力を強化するために、革新的で影響力のある民間セクターおよび慈善団体との連携している。グローバルファンドのパートナーシップは、デジタルヘルス、電気通信、金融、製薬および生命科学、さらには消費財メーカーにまでおよぶ。

私たちは、エイズ、結核、マラリアとの闘いにおいて、資金提供から、専門知識や技術、イノベーションに至るまで、多岐にわたる民間セクターがもたらす様々なリソースを活用している。

2026年5月時点で、民間ドナーからの累積拠出額は51億米ドルに達している。この中には、最大の民間ドナーであるゲイツ財団や、最も成功した民間セクターパートナーシップの一つである(Red)によって拠出された6億米ドル以上が含まれている。



51億米ドル

民間や非政府団体
からの累積拠出

(Red)の共同設立者の一人でもあるU2のボノ

Photo by Stellantis courtesy of (Red)

能力構築と知識移転

民間セクターの知見や技術を活用し、サプライチェーンをはじめ、様々な分野において各国における保健サービスの効率性を強化。このようなパートナーシップでは、支援する国における能力構築や知識の移転を目的に、民間パートナーは自らの強みを活かし、オペレーション上のボトルネックの解決を各国が行えるよう支援。



- ・ラストマイル配送
- ・ネットワーク最適化



Project
Last Mile



- ・診断・検査システム統合
- ・アウトブレイクの監視
- ・診断におけるAI導入



- ・需要創出とユーザー中心設計による効果的な予防



Project
Last Mile



- ・医療廃棄物管理と循環型経済



Thank you



**The Global Fund to Fight
AIDS, Tuberculosis and Malaria**

Global Health Campus
Chemin du Pommier 40
1218 Le Grand-Saconnex
Geneva, Switzerland

+41 58 791 17 00
theglobalfund.org